

イマカナ

支え合い

井口さんと山田さん



自身の人生の糧にも

井口さんと山田さん

〈4〉

市民後見人

人に寄り添う

今回は2012年から実施されている横浜市市民後見人養成課程の第一期生として現在も活動されている2人を紹介します。

井口正幸さん(70代)は、定年後はゴルフなどの趣味を中心にとっていたところ、充実した第

二の人生を過ごしている友人から、生きがいを持つことの大切さを教えられました。自分のキャリアにはない別の世界である福祉活動に参加する中で、市民後見人を養成する情報を得て、新たな出会いに期待して応募しました。

山田慶さん(50代)は00年に成年後見制度が行われた際、家族や自分が、将来に利用するかもしれないと思ひ、自分自身のための勉強として始めました。仕事と両立できるか不安でしたが、時間を工夫して取り組んでいます。地元横浜への恩返しの意味で活動できることにやりがいを感じています。

市民後見人として志を共にする人と出会い、共感し、仲間と支え合いながら活動することで自身の人生の糧にもなっているという2人も語っています。

市民後見人の活動について「家庭裁判所から選任されている以上、信用を失わないよう気を付けている」と山田さん。一方、井口さんは「ご親族や支援者との関係構築も大切に感じています。私の訪問を楽しみに待っていてもらえる後見人でありたい」と語ります。

2人は「市民の方々にもっと市民後見人を知ってほしい。さまざまな知識や経験、出会いも得られるので、難しいと思わず、チャレンジしてほしい」と新たに市民後見人となる仲間との出会いを楽しみにしているそうです。

△終わり▽